

# みこころ



カトリック松山教会  
〒790-0003 松山市三番町四丁目5-5  
TEL 089-921-1849 FAX089-921-2109  
ピーター・ジャ・レ神父 O.P.  
発行 広報活動委員会

## 神に感謝と賛美

メリークリスマス、

明けましておめでとございます！



カトリック松山教会  
担当司祭  
ピーター・  
ジャ・レ神父 O.P

まず、2024年の新年に、  
私たちのカトリック松山教会に多くの  
祝福を与えられた神に感謝したいと思  
います。  
なぜなら、私たちの信仰は、受けた  
すべての恵みに対して、常に神様に  
「感謝」と「賛美」をささげなければな  
らないと教えているのです。

そして、皆さんのカトリック松山教  
会に対する犠牲と献身に感謝し、神父  
様たちへの愛と支えが絶大であったこ  
とに、感謝したいと思います。

皆様の博愛とご協力、慰めと賛辞のお  
言葉、建設的なご批判と有益なご助言  
に感謝いたします。

これは、私にとって大きな力と支えで  
あり続けています。

神が始まりであるように、皆さんも神  
が私たちと共に、旅をしておられると  
いう「勇気」と「信頼」を持ってくだ  
さるよう祈ります。

今年が、皆さんの愛するすべての人に  
とって、喜びと健康の年となりますよ  
うに。  
家族や友人との関係が深まる年であり  
ますように。

神がすべての害からあなたを守り、  
永遠の光であなたを導いてくださいま  
すように。



2024年には、皆さんのご家族が  
祝福され、幸せで、平和で、健康な  
新年を迎えられますように。  
皆さんの愛する人々に、  
神の祝福がありますように！



「オアシスは再会の場でもある」

松下 謙二

昨年11月末の事である。

私は、渡部さんと二人でオアシスの当番に入り、オアシスにコーヒーを飲みに来られた方と話をしました。



この方は、奥様と共に長年教会に奉仕されていましたが、奥様は数か月前に帰天されていた。そこに、目の不自由な方が入って来られ、お話を

されていた方の横に並んで腰を掛けた。「私はこの教会で、60数年前に洗礼を受けたのですが、最近とんと、ご無沙汰しております。」

すると、「〇〇さん」と横の方が呼びかけた。「おお、私わかりますか。」

「わかるとも、私は〇〇です。」

お二人は手を取り合って、しばらく無言であった。お二人の手からは、何か光が射してくるようであ

った。

後日、改めてお話を伺うと、60数年前の同じ日に、洗礼を受けた仲間であり、

15年ぶりの再会であったとの事でした。

二人は、連絡先を交換し、現在、連絡を取り合っているという。

久しぶりに、教会を訪ねて来られた方は、最近、信者であった弟さんを亡くされ、

弟さんの信徒台帳を確認するために受付に見えられた。

そこで、「お茶でも飲んで行かれませんか。」と、受付の岩本さんから案内されて、

オアシスに入って来られたとの事であった。何と、オアシスが、15年ぶりの再会の場になったのです。

そう確信した、心温まるエピソードを、本人了解の上紹介させていただきました。



イエス・キリストの誕生です。

神の子イエスが人間になったことによって、



●帰天者（8月以降）

- 8/11 マリア・セシリア 児島利要子さん（97）
- 8/24 マリア・ロザリオ 西原ミチ子さん（99）
- 9/22 マリア・ロザリオ 大澤 美英さん（79）
- 10/26 インマヌエラ 谷口 絢子さん（85）
- 12/26 マリア・ミカエラ 武市 里美さん（73）
- 2021/12/10 ヘロニモ 藤原二良（ジロウ）（77）
- 2024/1/14 ヨセフ 青木 正和さん（72）

●転出者 なし

●転入者

長崎教区 相浦教会より  
マリア 山本 高子さん



私たちに神へと向かう道が開かれたのです。クリスマスソングを歌い喜び合いました。



# 待降節黙想会

生涯養成委員

日野 和子



待降節のローソクに火が灯りました。

「希望」の光・「平和」の光・  
「喜び」の光・「愛」の光・  
この光は「待つ私たち」の心を表します。

大きな光「イエスの到来」の光が灯ります。

黙想会は、カトリック教会における黙想の会。日常の生活環境や仕事から一定の期間は離れて、自分の霊的生活に必要な決心をするために、孤独な場所に引きこもり、黙想、反省、祈りの時を過ごすことである。  
12月2日の講和で印象に残っている事は、  
王<sup>II</sup>権力、英雄<sup>II</sup>独裁者は、全権力を握り上に立ち支配しますが、イエス様は愛と奉仕の為に下へ下へと下って行った。



苦しむ人、孤立した人を愛するために。来るべき方をお迎えし、一緒に生きていく、その「イエスの到来」を待つ大切な期間、待降節。祈りと愛をもって過ごしたいものです。



12月3日は、テゼの歌を皆で繰り返して歌うことにより、心を一つにして、祈れた様に思います。それは、諏訪司教様の綺麗な歌声と、ギターとともにありました。

心に染み入る素晴らしいひと時を、過ごさせて頂きました。

2日間で、100人以上の信徒が参加しました。



黙想会前のミサで、  
諏訪司教様が次のように述べました。  
教皇フランシスコのクリスマスメッセージ、こんな言葉があります。人間の心に闇があっても、キリストの光はもつと大きいのです。

また家族、社会の間に闇があっても、キリストの光の方がずっと強いのです。

経済や地域政治、環境上の紛争に闇があってもキリストの光はそれに勝るのです。

中東や世界のさまざまな国で戦争や紛争に苦しむ多くの人々や子供たちに、キリストが光輝きますように。

様々な出来事や、問題の大きさに無力感を感じる私たちに、たとえ闇があっても、その中にキリストの光は残り続けるのです。

闇に中の光を思い出しましょう。その光は、

この世に輝き続け、消えることはないのです。

イエスの光を、私たちは照らし歩き、

闇に光を輝かせていくのです。

洗礼を受けたその日、

私たちは、主の復活の光を託されました。

毎日、主の光を手を持ちながら、希望のうちに、

私たちは「積極的な待つ人」となりました。

私たちは「すでに」キリストを迎えたのですが、

「いまだ」完成されていません。

教会は「すでに」と「いまだ」の中間にあって、

「待つ教会、旅する教会」であると自覚しています。

私たち、助け主である「聖霊の時代」を

イエスと共に、イエスに向かって、ともし火を手に

「待つ人」です。

その希望の祈りと光を通して、神の愛が流れます。

世界中には、いったいどのくらいの光が輝いている

事でしょうか。

神の国は、武力や権力ではなく、

互いに仕え合う生き方ではないでしょうか。

来るべき方が、無防備の幼子として来られる意味を

深く味わいたいと思います。



# 大阪高松大司教区 設立式ミサ

日本で初めて二つの教区が一つになる。

新しく大阪高松大司教区が船出する設立式ミサが、10月9日、大阪カトリック聖マリア大聖堂で盛大にささげられました。



カトリック松山教会から、ジャ・レ神父様と山口助祭 含め27名の信徒の皆さんとシスターが参加しました。大阪高松大司教区は、大阪府・和歌山県・兵庫県・香川県・徳島県・愛媛県・高知県の1府6県から千人以上が参加しました。

設立のシンボルとして府県名の入った旗が先頭、愛媛の旗は柏原議長が持ち、日野さんが捧げものホスチアを運び奉納しました。



前田 万葉大司教様は、ミサ説教の中で、新しい大司教区の保護者を「ロザリオの聖母」と明かされた。



前田 万葉 大司教



ロザリオの聖母は、注意深く神の言葉に耳を傾けること。

試練にゆるぎなく耐えること。真心から祈ること。主のまことの弟子になるための三つの重要なカギを私たちに与える。

風土や文化、司牧的環境を異にする二つの教区が一つになるという簡単ではない状況の中で、「ロザリオの聖母への祈りのうちに、「交わり、参加、宣教する教会（シノドス）」となるように熱心に祈りましょう」と呼びかけました。

# 大阪高松大司教区 設立感謝ミサ

大阪高松大司教区設立感謝ミサが、11月11日に高松桜町教会大聖堂で行われました。



カトリック松山教会から、ジャ・レ神父様と川上神父様、シスター2名と信徒15名の19名が感謝ミサに参加いたしました。マイクロバスに乗車し2時間30分で高松の桜町教会に到着しました。

ミサの説教で、前田万葉大司教様は「11月は死者の月であるが永遠の命、体の復活を信じる月でもある」と言われました。



ミサ終了後には、記念セレモニーが行われ、事務局次長より挨拶の後、

前田大司教様へ着座のお祝いの花束が贈られ、諏訪司教様へ感謝の花束が贈呈されました。

その後、四国四県より代表者が前田大司教様へメッセージを送りご回答を頂きました。

最後は、写真撮影で司教団・司祭団退堂で終了しました。

# 新教区設立に際して

## 高松教区名誉司教 諏訪榮治郎

教会の歴史をゆつたりと辿ってみたら、今日のこの日は待ち遠しい日でした。

福音宣教推進全国会議で、一つの課題として、将来教区の統廃合という問題が出ていました。

いつそれが起こるかという期待と色々な思いの中で、今日を迎えることができたことを感謝します。



諏訪 榮治郎 司教

教皇様の「新しくできる大阪高松教区は、マリア様であってほしい」という期待にすごく納得します。この社会の中で、マリア様でありたいと思うときに、希望が湧いてきます。そして今、たくさんの人の支えの中で、教会は歩んでいきます。信徒の皆さんのおかげで、司祭たちも歩んでいます。感謝します。



四国の教会のことを思うと、ご存じのようにほとんどの方が弘法大師の精神で生きています。そんな中で、ゼロからスタートした歴史です。ドミニコ会が百十年もかけて教会を作り、幼稚園を作り、そして戦後、日本人がどこを向いて生きていったら良いのか分からないときに、オペレート会が、そして、スペイン外国宣教会がたくさんの援助を持って、宣教師のたくさんの犠牲を持って、四国の教会を築き上げてくれました。この場を借りて本当に感謝をいたします。この印でしょう。「ともに歩みなさい」という世界的なシノドスの流れの中で、二つの教区が、新しい一つの教区として、ともに協力し、支え祈りあつて、マリアであるということ、生きていきます。感謝します。

若い時にこんな言葉がありました、  
「今、大阪教区がおもしろい」  
これからは、「今、大阪高松教区がおもしろい」という、新しい波と一緒に築いて行ったらいいなと思います。多くの、特にアジアからの若者たちの力を頂きながら、これから「おもしろい教区」になって行きたいと思えます。本当に皆様ありがとうございます。

あいさつした後、御自信に贈られた花束を持って、「この大きな花束ですけれども三つに分かれています。」

一つはドミニコ会にお渡ししたいと思えます。サンミゲル神父様、長い間支えてくださったことを感謝したいと思います。

一つは、オペレート会を代表してステイブ神父様一つは、スペイン外国宣教会を代表してイスマエル神父様、ありがとうございます。



いろんな宣教会と修道会、修道女会の皆様、大阪高松大司教区を支えていく、新しい教区を支えながら幸いのうちに、ありがとうございます。



# 地震・火災避難訓練

地域ネットワーク委員 田窪由紀子

11月19日 ミサ終了後に訓練が行われました。ミサに参加した130人の信者の皆さんに協力して頂きました。

地震が発生した際の対処方法として、議長説明。その場から動かず落ち着いて、揺れがおさまるまで、その場で、しゃがんで手やカバンで頭を守る。



火災が発生した際の訓練では、実際に警報を鳴らして、司会者の誘導と地域委員の誘導により、正面向口より階段下の駐車場まで避難誘導訓練を行いました。階段では、足の不自由な人を想定して、男性信者が介助して階段から安全に降ろす救出方法などを練習しました。



傷病者の両脇下から両腕を差し込み、片腕の手首と肘のあたりを握り持ち上げる

避難した人の中に、負傷者がいないか、救急車の手配が必要でないかどうかを、地域委員の責任者が確認し、その結果を議長に報告するなどの避難訓練を行いました。消火訓練では、四国消防の芳野さんの指導で消火器の使い方、消火の仕方の講習を受けました。実際に3人ずつ消火を行い、すべての避難訓練を終了しました。

## 消火器の使い方



非常ベルを鳴らしての訓練だったので、参加された皆さんも「今年もみんなで一緒に訓練したので緊張感もあって良かった」と声を掛けられました。実際に災害にあった時、自分の身を守りさらに体の不自由な人にどう接して、皆さんに協力を呼び掛けるか、必要なことは、普段からの訓練しか得られないと思います。今後も、避難訓練やAED講習会を定期的に行い、皆さんと一緒に、大切な命、私たちの教会を守っていききたいと思えます。

# 祝・洗礼式

11月5日

カトリック松山教会で、洗礼式が行われました。洗礼を受けたのは、坪内 聖(きよし)さんです。私たち共同体の信徒として加わりました。

坪内さんは昭和62年生まれ36歳。霊名は、マルティン・デ・ポレスです。代父として、フランシスコ 高野 一憲さんが、洗礼に立ち会いました。

ペトロ川上 栄治神父様より洗礼の秘跡を授かりました。



坪内さんは、神様の子供として新しく生まれ変わりました。これからは仕事を覚えて、もっと頑張ってください。代父の高野さんは、職場の上司として、障りなく暖かく見守りたい。と話していました。

# 敬老の日・感謝の集い

9月10日

75歳以上の信者さん感谢您し、お祝いをしました。参加者は44名、祝いのお饅頭は70個配りました。



ベトナムの若者からお祝いの民族踊りで祝福。カラオケで盛り上がりました。

山口 聖智助祭より。

もうこんなに年をとったから「私ら何にもできないのよ」祈ることしかできないの。いい時も、悪い時も、いつも、にこにこしている。だから「何もできなくても」居て下さい。居るだけでもいい。分です。何か救われる。どうかやさしい上に、もう一段やさしい愛で私たちを助けてください。イエスキリストは愛です。



評議会  
柏原 勝利議長



評議会議長・柏原 勝利

皆さん4年ぶりの開催となりました。皆さん方に、いろいろお世話をさせて頂いていただく中で、至らぬ点多々あると思えますけれども、これからも、皆様方のご指導を得ながら共に松山教会がよくなつていくように頑張りたいと思います。



山口 聖智 助祭

先ほどの山口助祭様のお話の中にありましたけれども、「何もできない」という方もたくさんいらっしゃると思いますが、「笑ってくださるだけでも」励みになります。「よかったね」と一言で、励みになります。心強い励みです。

是非これからも、「神様の愛とともに」この教会が益々皆様方のお力とお祈りで発展できますように、更に皆さん方の健康で長生きできますようにお祈りします。



ベトナムの踊りで長寿の祝福



長寿祝いお饅頭を配る

ジャ・レ神父様より。

教会として愛、できるか、できないか、ほかに迷惑かけるかどうか、教会としては、みんなを受け入れる互いに理解するそれが大切だと思います。司祭になって2年いろいろ迷うことがあります。まだまだ、わからない事がいっぱいあるので、皆様ができること、できないこと、互いに支えあつて、できる教会にしたいと思います。皆さんもお元気で教会のことを思ってミサのときとか自分の家族と一緒に祈るときに教会のことを祈ってほしいと思います。よろしく願います。



## 山口 聖智助祭

まさとこも

### 「喜び」について

山口聖智 助祭（ドミニコ会 中華聖母準管区）

私が、台湾から松山に参りましたのは、8月半ばです。早、5ヶ月が経とうとしています。

足掛け13年に及ぶ海外生活から日本に戻ってきて、いろいろと気付いたことがあります。

そのうちのひとつが、子供が社会でも教会でも少なくなってしまうということです。



山口 聖智 助祭



街を歩いてみると、見かける子供が本当に少ないです。

教会でも、主日のミサでさえ数えるほどしか子供達が見当たりません。

子供が少なくなってしまうという事実によって、社会にも、教会の未来にも、希望が見えづらくなっています。

一時は、圧倒的な経済的、物質的、繁栄を謳歌した日本が、どうしてこんなことになってしまったのかと思います。

表面的に、形式的に、物質的に体裁が整っていたとしても、内面の豊かさ、自由、やさしさ、喜びがないことに関係しているようにも思われます。

教会でも、単なる義務感からミサに足を運んで、表面上は、典礼が滞りなく行われたとしても、その裏では、他人と見比べ、見栄を張り、派閥を作り、他人を牽制して、このような「我（が）」のつばぜりあいが行われていたとしたら、どんな若い人が教会に行こうなどと思うでしょうか。

また、若い人はこの修羅場のような現代日本の社会で、自分ひとりが生き抜くことに精一杯で、あるいは自分のひとりの幻想に逃避して、心を閉じて誰かを受け入れ、受け入れられ、共に喜び、共に苦しみながら、自らも成長しつつ、子を産み育ててゆくなどということは、なかなか考えられないのではないのでしょうか。

「いつも喜んでいなさい。（第一テサロニケ5:16）」  
「聖ドミニコは、福音を、喜びを持って述べ伝えた。彼の顔はいつも喜びに溢れ、彼はその喜びによって、たやすくみなを勝ち取った。（中略）彼はいつもうれしそうだった、幸せそうだった。」

**(Paul Murray, OP, The New Wine of Dominican Spirituality, p. 50, 11口訳)**

「喜び」のある状態というのは、よいものの中に憩っているということです。

神さまの愛のうちに生きている、完全にそのものうちにあるということです。

まだ「我（が）」があるうちは、こうしないといけない、ああしないといけないと無理が出てきてしま

う、自分で楽しくない、疲れてしまう、そしてそれを他人にも要求してしまうということがあります。



逆に神さまの愛のうちに生きていけば、少くらい辛いことがあっても、それを感謝して受け取らせてもらう心が出てきます。自分が開け、成長してゆくことができます。

他人に対しても、長い目で、神さまの目でみてあげることができるようになってきます。では、私たちの「喜び」の根拠は何か、それは、完全でありながらも、愛ゆえに、あえて私たちと同じ弱い肉を、心を取られ、苦しまれ、十字架に架けられ、死に、そして復活されたイエス・キリストという人の、神さまの事実（リアル）です。その方の愛です。そして、それを福音の喜びといえます。

だから私たちには喜びがあるのです。どうか、この福音の喜びの確信に、真理に触れてください。福音の喜びを味わってください。

そういう私たちの喜んでる姿があれば、その自然な結果として、知らず知らずに、松山教会のまどいが広がってゆくでしょう。

若い人たちにも、教会に戻ってきてもらうことができるかもしれません。

そして、これから縮小してゆく日本社会の中で、私たちの根拠ある喜びによって、希望の光をみなに示すことができるかもしれません。大丈夫です。